

# 多久 議会だより



令和2年  
6月定例会  
第45号



- 議案質疑 ..... P2
- 審査報告 ..... P3
- 一般質問 ..... P4~9
- 5月・7月臨時会 ..... P10~11
- まちで発見! ..... P12

## 5月・7月臨時会

児童センターあじさい・綾翔(あやと)くん

～江戸時代前中期の儒者であり、東原庵舎初代教授～



# 『川浪自安』

寛永12年(1635年)～享保4年(1719年)



川浪自安・質斎の墓

先月、多久聖廟近くの聖光寺南にある二千年ハスを見学に行ったときに並んで立つ古いお墓を見つけました。それは「川浪自安先生」とその養子「川浪質斎先生」のお墓でした。

川浪自安は佐賀郡八戸に生まれ、幼いときから学問が好きで、慶園寺の輪安和尚に漢学を、松永宗雲に医術を習い、27歳の時に江戸にて吉田法印の門下生となり儒学を学びました。

31歳の時に郷里に帰り、多久3代領主・多久茂矩に医師として仕え、武富咸亮や実松元林(佐賀藩の儒学者で多久四代邑主多久茂文公の師)とも交際がありました。

多久4代領主・多久茂文が東原庵舎を設立すると、初代教授となりました。多久では武士の子は必ず東原庵舎で学ぶことを相続の条件とし、町人、百姓であっても学問を志す者すべてに入学を許していました。

このような邑民教育政策は次第に成果を出しはじめ幕末から明治にかけて開花していくこととなり、日本の近代化や郷土発展に尽力した人物を数多く輩出しました。

川浪自安は、道義心が強く人望が厚く、人々から尊敬され、模範的な学者として生活をしていました。

70歳になると、世の中との交わりを断ち、文を学び、書を読み、箏を弾き、茶花を生け、和歌を詠むような生活を送り、享保4年85歳で没し、多久聖廟北の松山墓所に葬られ、その後、聖光寺に移されました。



東原庵舎跡石碑

### 先家君自安先生墓誌

昭和52年松山墓所から、聖光寺に移す墓地改葬の折、墓誌が発見されました。墓誌は安山岩製で蓋と身からなり蓋の内側に「先家君自安先生墓誌」と刻まれ、身の凸面に誕生から没年までの経歴、功績などを360の文字で刻まれています。(※墓誌とは、埋葬された人物の名前・経歴・業績・年齢・死亡年月日などを銅板や石等に記し、遺体と共に地中に埋葬されたものです)



UDFONT

見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。



環境に優しい植物油  
インキを使用しています。

- 議会広報委員会
- 委員長 榎島 永二 郎
  - 副委員長 古賀 公彦
  - 委員 野北 悟
  - 委員 田淵 義彦
  - 委員 香月 正則
  - 委員 鷲崎 義彦



### 【多久議会だより第44号 掲載記事の訂正とお詫び】

2020年5月1日発行の多久議会だより(第44号)の「多久市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例に対する反対討論」(P.5)の記事の中に誤りがありました。賛否票の議決結果が「原案可決」となっていたが、正しくは「原案否決」でした。訂正し、お詫びいたします。

